
--

Enterprise Information Network System at Kawasaki Steel



要旨

川崎製鉄で最近構築した企業情報通信システムはかわてつネット、グループツールシステムおよび広域企業間コンピュータネットワークシステムにより構成される。かわてつネットは川崎製鉄およびグループ内の主要事業所間を結ぶ市田ネットワークであり、これ

を行うこととなり、ネットワークに対する新たな要請が出てきた。

これらは、神戸本社、千葉および水島製鉄所など各所に配置して

3.1 システムの狙い

本システム構築にあたっての狙いは以下のとおりである。

として、ネットワークシステムを介してその端末を他の事業所に配置するものである。とくに販売生産管理システムではさらに全国の事業所や販売・物流拠点をも対象とするものであり、広域ネットワークの確立が要求された。

クチャーの形成

ますます増大し多様に広がるコミュニケーションニーズの変化や広がり柔軟にまた容易に対応できるネットワーク・インフラストラクチャーづくりである。将来、あらゆる部門間での

Chiba Works/Technical Research Div.

M. Terauchi / M790/100 - 1.4V

6-2-2-1

前述のとおり、幹線区間を高速・大容量の高速デジタル伝送サービスにより構成したデジタルネットワークである。日本電信電話株式会社の新サービス「高速デジタル伝送サービス」

して品質確保を図った。
(4) その他の特徴

サービスを一般企業では川崎製鉄が他社に先駆けて導入したもの

を装備しているほか、今後の ISDN などに対応可能なデジタル

である



のため川崎製鉄の事業所や直系商社を対象とした企業内異機種コンピュータ間のネットワークシステムの実現が必要となった。さらに

する調査分析と把握

(b) 両システムでの共通使用可能領域部分の取捨選択と実現

商社等（16社）の多種メーカーのコンピュータとのオンライン結合も要請された。

(c) 実現順序の決定（優先順位づけ）

(d) 全社標準の確立

合、現時点ではメーカー共通の標準化がまだ確立していないため、ユーザーの責任で多くの課題に対応して異機種間結合を実現した。

(1) 企業間ファイル伝送の実現にあたっての標準化と汎用パッケージの採用

control), HDLC(High-level data link control)

- ・ネットワーク資源名や各種IDの統一
- ・運営手続きとフォーマットの制定